**御笠の森**

[表のキャプション]

かつて大きな森だったこのささやかな木立には由緒がある。日本最初の史記の一つに皇后に関してその名が記され、また崇敬された詩人が恋の詩を詠んだ場所である御笠の森は、太宰府の遠い過去とつながる静かな場所である。

[裏の解説]

この森の名前である御笠の森とは、"帽子の森 "を意味する。神功皇后（伝承上の生没年は169-269年）の伝説に由来する。神功皇后がこの森の近くを旅していたとき、突然のつむじ風で円錐形の帽子が森のほうに飛ばされたという。この話は、日本最古の史料である8世紀の史記、日本書紀に記されている。

8世紀、奈良の都を行き来する役人たちは御笠の森を通り、その美しさと静けさに感嘆した。中には歌を詠みあげるものもおり、そうした人々のうちの一人、大伴百世（おおとものももよ）は8世紀の大宰府政庁の高官であった。百世の恋の歌は、現存する日本最古の歌集である『万葉集』に収められている。歌の中で、百世は最愛の人への誠実な献身を誓っている。

思はぬを

思ふと言はば

大野なる

御笠の森の

神し知らさむ

私が告白した愛が本心でないとしたら、

大野にある御笠の森に宿る神によって、

私の偽りはきっと見抜かれているだろう

現在、御笠の森は神功皇后を祀る小さな祠と、大伴百世の詩が刻まれた大きな石がある静かな憩いの場となっている。